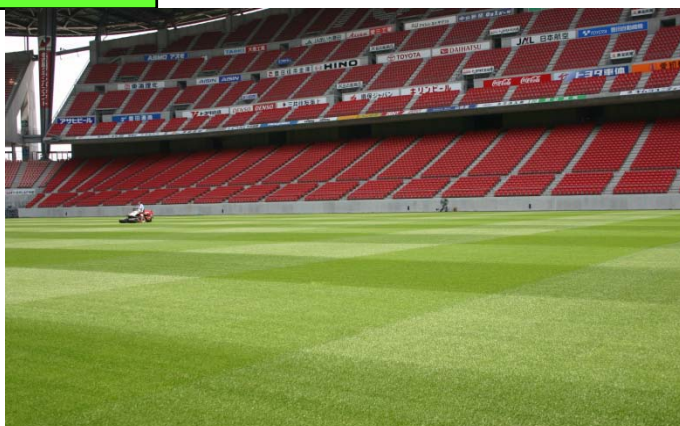


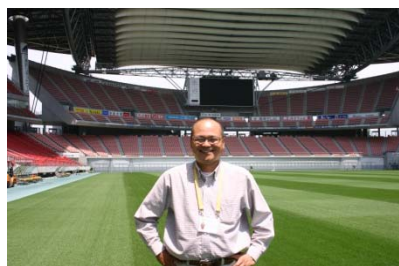
# スポーツターフにREVO<レボ>

## 豊田スタジアム



9000㎡のケンタッキーブルーグラスの芝生で名古屋グランパスを中心としたサッカー専用スタジアム。スタジアム内で市民イベントやコンサートも開催する。10月に仙台の圃場で育成したケンタッキーブルーグラスを張り替える。この張替え技術に隠れたノウハウがある。張替え後3週間でサッカーの試合を予定しているため、早急に試合で使えるスタジアムピッチ用の芝生に育成しなければならないために、圃場での育成管理と張替え後の養生管理がカギとなる。

レボを使うと芝生の水分が上手くコントロールでき、水分の透水性が良くなるので根の伸びが良くなる。



田井中グラウンドキーパー

レボを豊田スタジアムで使用して2年になる。レボは日照不足による特異な施肥管理(微生物肥料中心で水を多く使う)と試合前の水分コントロール(芝生面硬度)を行なうために使用している。レボを2ml/㎡で春から定期的に月に1回又は2ヶ月に3回散布をしている。試合の10日前にレボを散布して即散水する。試合までにタイミングを見計らって1回から2回散水する。この散水を調整できることでレボが芝生を最良の状態にする。このように水分を上手くコントロールすることで芝生育成とピッチコンディション維持に一役買っている。相手チームからも豊田スタジアムの芝生は素晴らしいと高い評価をいただいている。

## 日照不足とサマーディクライン対策にグリーンメカ

豊田スタジアムはサッカー専用スタジアムのため、観客席やドームが太陽光を遮るので日照不足が大きな問題である。平地に比較して日照時間を計測すると40%程度(冬季は30%)と非常に少ない。その為芝生の栄養補給にグリーンメカを5ml/㎡の量で10月、11月、1月、2月に散布している。芝生の光合成不足をグリーンメカによる糖類補給で大きな成果をあげている。又仙台にある圃場では土壌条件から硫化水素の発生が問題となるが、トモグリーン・ケミカルの光合成細菌を6月より4回から5回散布することで土壌環境が良くなり臭いがとれ、こちらでも成果を挙げている。

代理店

製造元



芝生・農芸薬剤の開発・輸出入

株式会社 トモグリーンケミカル

〒420-0816 静岡市葵区沓谷五丁目9番地の12

TEL <054>264-2151 FAX 264-2153

ホームページ <http://www.tomo-green.com/>